

地域学校協働活動 (地域学校協働本部)

～「学校を核とした地域づくり」を目指して～

詳細はこちら



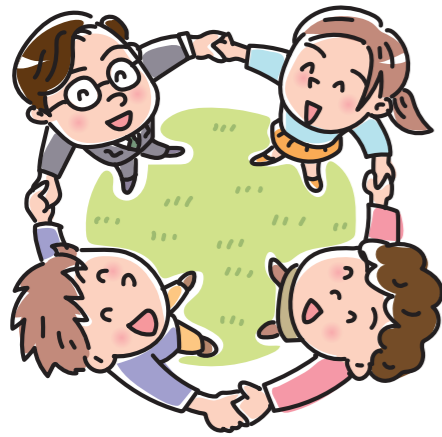
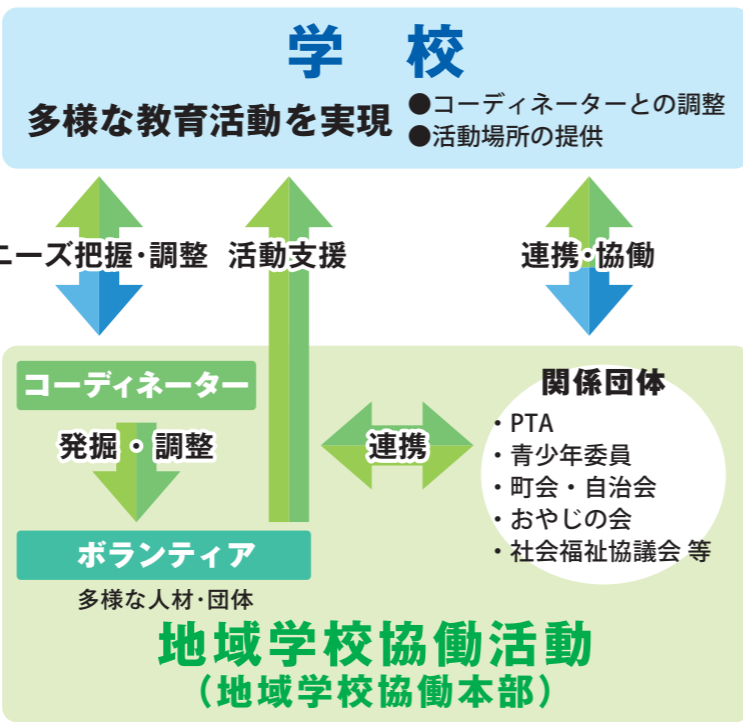
地域学校協働活動(地域学校協働本部)とは

PTA、青少年委員、子ども会、町会・自治会、企業等の幅広い地域住民等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のこと(地域学校協働本部はその活動を推進する体制)

江東区教育委員会によって委嘱されたコーディネーターが、地域と学校の連携・協働の推進にあたって重要な役割を果たします。

【コーディネーターの主な役割】

- 地域と学校との連絡調整、情報の共有
- 地域学校協働活動の企画、調整、運営
- 地域住民への呼びかけ など



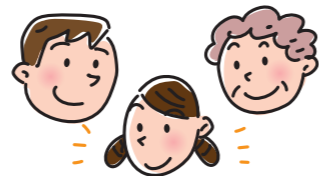
地域学校協働活動ってどんなことをしている？

江東区立の全ての学校に設置されている地域学校協働本部が、各学校の実情に応じて、様々な活動に取り組んでいます。

地域と学校が連携・協働することで多様な活動が実現できます。

【活動例】

- 花壇整備 ●登下校の見守りボランティア ●体験教室
- まち探検のサポートのための町会との調整 など



こうとうの教育

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

～「地域とともにある学校づくり」を目指して～

詳細はこちら



コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは？

「学校運営協議会」を設置している学校のこと。

学校運営協議会…地域住民や保護者等、江東区教育委員会によって任命された15名以内の委員で構成され、年5回程度開催されます。

「学校運営協議会」では、学校運営について、地域住民や保護者等が校長の作成する基本方針を承認したり、学校と様々な課題を共有したりするとともに、必要な支援等を協議します。

学校運営協議会の設置により、地域住民や保護者等が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することになります。

なぜコミュニティ・スクールを導入する必要があるの？

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、子どもや学校の抱える課題の解決、未来を担う子どもたちの豊かな成長には、社会総がかりでの教育の実現が不可欠です。

そのためには、学校と地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」へと転換していくことが重要です。

コミュニティ・スクールの導入により、地域住民等が学校運営に参画することを通じて、学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、「地域とともにある学校づくり」を効果的に進めることができます。



江東区のコミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)



学校運営協議会年間スケジュールのモデル

回数	時期	主な内容
第1回	4月～5月	・学校運営基本方針の確認 ・教職員の紹介 ・学校運営協議会の年間計画の策定
第2回	7月	・担当教員を交えて、テーマを決めての懇話会
第3回	9月～10月	・教職員任用に関する意見の作成 ・地域学校協働本部からの報告
第4回	1月	・学校評価 ・次年度の学校運営基本方針案の提示 ・意見交換
第5回	2月	・次年度の学校運営基本方針の承認

その他、第1回～第5回の中で適宜、学校運営への必要な支援等について協議する。

求められる役割
校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通じ、当事者としての意識をもって、意見を出し合いながら学校とともに学校運営について考えていく役割を担っている。

委員
校長推薦により教育委員会が任命
①保護者代表 ②地域住民
③地域学校協働活動推進委員(コーディネーター)など

学校運営協議会



PTA 青少年委員
町会・自治会 その他

おやじの会
社会福祉協議会
ウィークエンドスクール
企業等

連絡会
～各組織の横のつながりの構築～

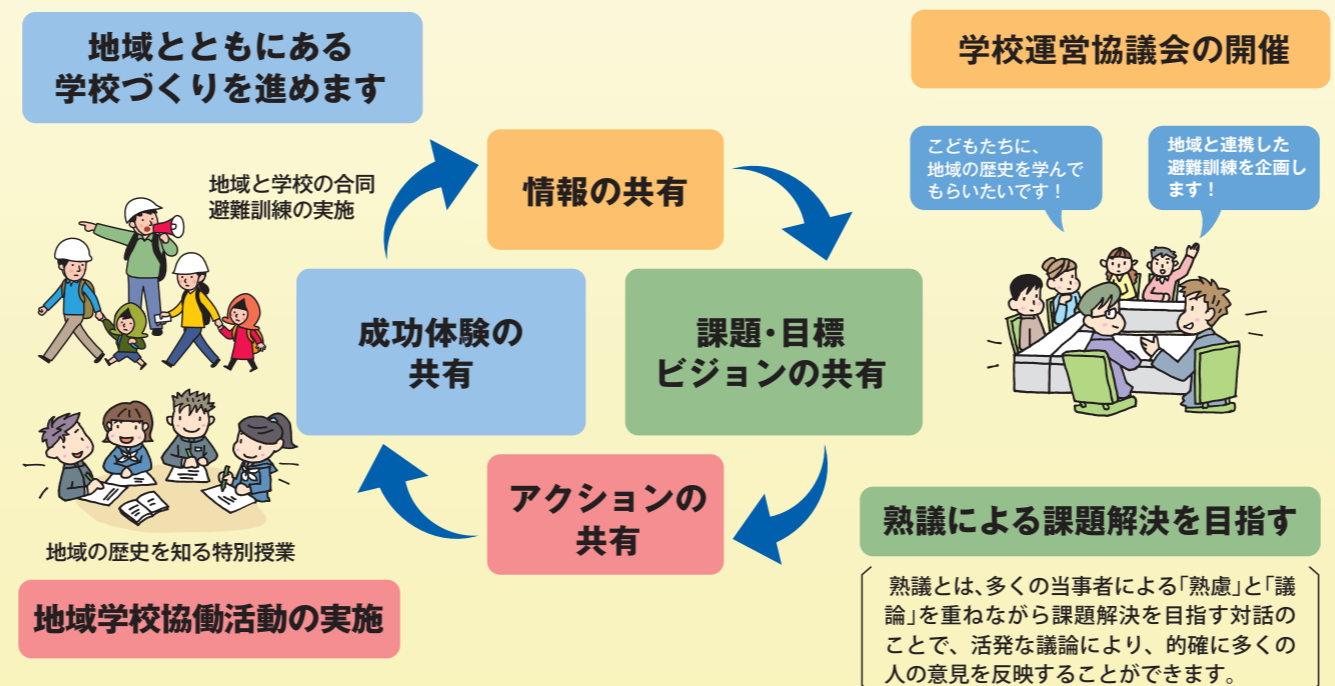
地域のボランティア

地域学校協働活動(地域学校協働本部)

登下校の見守り
花壇の整備
学習指導

学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進! ～共有の好循環～

情報の共有	学校運営協議会を開催し、地域・学校・家庭の現在の情報を共有します。
課題・目標ビジョンの共有 ※	共有した情報をもとに、学校運営の基本方針の承認や地域学校協働活動の方針、内容について協議します。
アクションの共有	協議した方針に基づき、保護者や地域関係者、地域学校協働本部のコーディネーターが連携し、地域学校協働活動として様々な取り組みを実施します。
成功体験の共有	うまくいったこと、改善点などを共有し、今後の活動に生かしていきます。



コミュニティ・スクール導入の効果

●学校

- ①地域の特性や多くの大人の専門性を生かした学校運営や教育活動が実現し、子どもたちに多様な経験を積ませることができます。
- ②学校の現状や運営方針について地域住民や保護者等の理解が深まるとともに、地域学校協働本部との連携がより強化されることで、多方面からの協力が得られます。
- ③地域住民や保護者等の学校運営への参画により、教員異動に左右されない安定した学校運営が継続できます。

●地域

- ①地域住民や保護者等の自己有用感や生きがいにつながります。
- ②地域行事に子どもたちが積極的に関わることで、地域への愛着が芽生えます(次代の人材育成につながります)。

※ 自分が他者に必要とされている感覚。

※ 学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組を進めていくためには、学校と地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という課題・目標やビジョンを共有することが重要です。